

IoT体験セミナー in 岐阜を開催

＜自作のプログラムを使ってセンサーからデータを取得・画像認識＞

総務省東海総合通信局(局長 吉武 久)は、令和元年12月11日(水)、岐阜市のじゅうろくプラザにおいて、東海情報通信懇談会(会長 岩田 彰 名古屋工業大学名誉教授)との共催により、IoTを活用できる人材を育成することを目的として「IoT体験セミナーin岐阜」を開催し、情報システム業や製造業などに従事している31名が参加しました。

はじめに講師から、「IoT機器はセンサーやカメラなどに取り付けることにより様々なデータをクラウド等のインターネット上のサーバーへ送信することが可能」「サーバーに蓄積された大量のデータをAIで分析することにより、業務の現状や課題を把握できる」と説明がありました。IoTの導入・活用事例として、農場における温度、湿度、日射量、水温などのデータを各種センサーにより収集し適切なタイミングで水や肥料、農薬を撒くことを実現した事例、製造機械の状態を各種センサーで収集し故障や不具合を事前に察知することにより生産性の向上やコスト削減につなげた事例を紹介されました。

次に、参加者は小型で安価なコンピュータ(Raspberry Pi。以下「RP」)を使用して、プログラムを作成しました。RPに各種センサー(温湿度・気圧・ジャイロセンサ)を接続し、取得したデータをLED表示板やモニターへグラフを表示したり、RPに接続したカメラにより撮影した顔画像をクラウド上のAIサービスにより画像を認識し、年齢や性別などを判別しました。

続いて講師から、電波を適正に利用するための電波法などの関連法制度やIoTシステムのセキュリティ対策について解説しました。IoTシステムの構築にあたっては、IoTに適した無線通信技術の一つとして、広範囲のエリアをカバーし、低コスト・低消費電力で通信ができるLPWA(Low Power Wide Area)について紹介がありました。

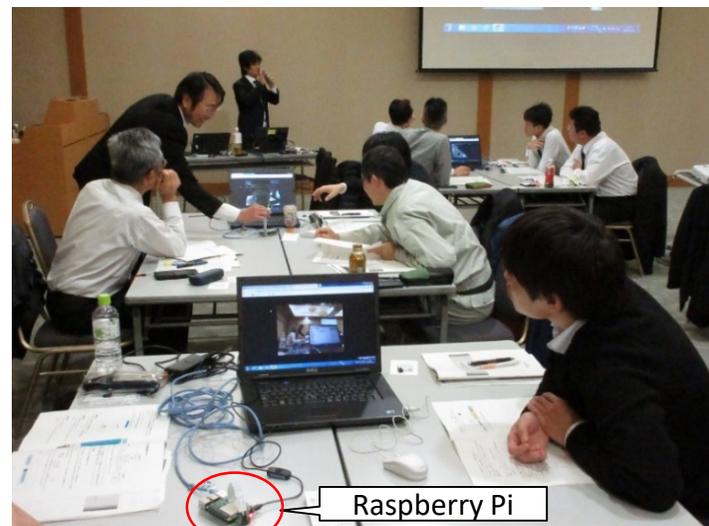
最後にワークショップとして、各自がIoT導入に向けたビジネス課題を洗い出し、解決策を導くための導入手順などについてのグループ討議を行い、自社のビジネス課題の解決に向けた意見が活発に出されました。

参加者からは「実機を体験出来るセミナーは大変有意義であった」「社内の業務に活用出来ないか検討してみたい」「体験型セミナーは企業もIoTの具体的なイメージが掴みやすい」などの声が寄せられました。

お問い合わせ先: 情報通信部情報通信連携推進課 052-971-9313



セミナーの様子



実機の操作体験